

申請先: 財団法人全国地域情報化推進協会 事務局

「GISユニット」 準拠確認チェックリスト

APPLIC 登録番号:

K000437-0004

★APPLICで記載

(1) 対象標準とバージョン

・GIS共通サービス標準仕様V2.0 ・プラットフォーム通信標準仕様V2.0

(2) 申請情報と製品情報

(a) 申請日(西暦月日):

2009年1月8日

(b) 申請区分(新規、修正、破棄):

新規

(c) 申請者

団体名:

マイクロソフト

★識別キー項目1

団体のURL:

http://www.microsoft.com/ja/jp/default.aspx

(識別キー項目3つでユニークになるように申請者が指定する)

APPLIC会員番号:

K000437

(d) 製品情報

製品説明のURL:

http://www.microsoft.com/japan/virtualearth/

代表製品名:

Microsoft Virtual Earth

★識別キー項目2

複数製品で構成する場合は追記:

Virtual Earth Web Services SDK

複数製品で構成する場合は追記:

Microsoft SQL Server 2008

複数製品で構成する場合は追記:

製品識別情報(バージョン等):

1

★識別キー項目3

リリース日(予定)(西暦月日):

2008年11月30日

対応OS:

Windows 2008 Server, Windows 2003 Server SP1, Windows 2003 Server R2, Windows XP Professional SP2

製品の形態((1)型から(4)型):

(2)型

全て同一提供者

全て同一提供者

Y社製品を

Y社、Z社の製品を

GIS処理製品
(サービスIF処理)
(PF通信処理)

(1)型

GIS処理製品
(サービスIF処理)
PF通信製品

(2)型

GIS処理製品
Y社PF通信製品

(3)型

GIS処理 Z社アダプタ
Y社PF通信製品

(4)型

Z社アダプタにより、
GISユニットサービスIF
処理を実現

前提となるPF通信製品

前提PF通信製品名:

Microsoft .NET Framework 3.5

※1

前提PF通信製品名:

※1

前提のアダプタ製品名:

※2

※1 (2)型から(4)型の場合、既に、準拠登録申請してあるPF通信機能を実装する製品名を記載する。

※2 (4)型の場合、GISユニットのサービスインタフェースを実現するアダプタ製品の製品名を記載する。

(3) PF準拠確認チェック項目(準拠ルール)

◎:対応、○:制約のあるもの(制限事項をシートの最後の備考欄に記載する)

番号	要件	準拠ルール	必須/ 選択	製品・シ ステム確 認	APPLIC 確認欄
1	地名辞典サービス	GISユニットは地名辞典サービスを実装し、他業務にサービスを提供できること	必須	◎	
1-1	地名辞典サービスの機能	地名辞典サービスは、次に示す機能を提供すること ただし、“選択”の機能の提供は任意でよい	必須	◎	
1-1-1	地理識別子検索機能	地名辞典サービスは、地理識別子検索機能を提供すること	必須	◎	
1-1-2	場所インスタンス取得機能	地名辞典サービスは、場所インスタンス取得機能を提供すること	必須	◎	
1-1-3	場所インスタンス登録機能	地名辞典サービスは、場所インスタンス登録機能を提供すること	選択	◎	
1-1-4	場所インスタンス更新機能	地名辞典サービスは、場所インスタンス更新機能を提供すること	選択	◎	
1-1-5	場所インスタンス削除機能	地名辞典サービスは、場所インスタンス削除機能を提供すること	選択	◎	
1-1-6	サービスメタデータ取得機能	地名辞典サービスは、サービスメタデータ取得機能を提供すること	選択	◎	
1-2	地名辞典サービスのインタフェース	地名辞典サービスは、附録1.2.1のWSDL定義に従ったインタフェースによる機能を提供すること	必須	◎	
1-3	GISDB(地名辞典)	GISユニットは、地名辞典サービスのインタフェース定義に準拠したサービスができるようにGISDBで地名辞典を蓄積・管理できること	必須	◎	
1-4	地名辞典データの交換	GISDB内の地名辞典データは、異なるGISユニット間で交換できる必要があり、GISユニットは、以下の機能を提供できること	必須	◎	
1-4-1	交換用地理空間データエクスポート機能(地名辞典)	附録3で規定されるスキーマ仕様に従って、GISDB内の地名辞典データを、交換用地理空間データへ符号化してエクスポートできること	必須	○	
1-4-2	交換用地理空間データインポート機能(地名辞典)	附録3で規定されるスキーマ仕様に従って、交換用地理空間データを復号化して、GISDB内の地名辞典データとしてインポートできること	必須	○	
1-4-3	座標参照系と座標の表記	「6.2 座標参照系と座標の表記」で定められた、座標参照系と座標の表記に従った地名辞典データの交換ができること	必須	○	

2	地図表示サービス	GISユニットは地図表示サービスを実装し、他業務にサービスを提供できること	選択	◎	
2-1	地図表示サービスの機能	GISユニットが地図表示サービスを提供する場合、地図表示サービスは次に示す機能を提供すること。 ただし、「選択」の機能の提供は任意でよい	必須	◎	
2-1-1	地図画像取得機能	地図表示サービスは、地図画像取得機能を提供すること (地図画像取得機能および地図画像URL取得機能のうち、少なくとも一方は提供すること)	選択	◎	
2-1-2	地図画像URL取得機能	地図表示サービスは、地図画像URL取得機能を提供すること (地図画像取得機能および地図画像URL取得機能のうち、少なくとも一方は提供すること)	選択	◎	
2-1-3	凡例画像取得機能	地図表示サービスは、凡例画像取得機能を提供すること	選択	◎	
2-1-4	地物情報取得機能	地図表示サービスは、地物情報取得機能を提供すること	選択	◎	
2-1-5	サービスメタデータ取得機能	地図表示サービスは、サービスメタデータ取得機能を提供すること	選択	◎	
2-2	地図表示サービスのインタフェース	地図表示サービスは、附録1.2.2のWSDL定義に従ったインタフェースで機能を提供すること	必須	◎	
2-3	GISDB(地図データ)	GISユニットは、地図表示サービスのインタフェース定義に準拠したサービスができるように、GISDBで地図データを蓄積・管理できること	必須	◎	
2-4	地図データの交換	GISDB内の地図データは、異なるGISユニット間で交換できる必要があり、GISユニットは、以下の機能を提供できること	選択		
2-4-1	交換用地理空間データエクスポート機能(地図データ)	自治体で定めるスキーマ仕様に従って、GISDB内の地図データを、交換用地理空間データへ符号化してエクスポートできること (※本項目を「対応」とした場合、GISユニット製品が対応可能なスキーマ仕様について備考欄(前提条件や制限事項)に記載のこと)	必須		
2-4-2	交換用地理空間データインポート機能(地名辞典)	自治体で定めるスキーマ仕様に従って、交換用地理空間データを復号化して、GISDB内の地図データとしてインポートできること (※本項目を「対応」とした場合、GISユニット製品が対応可能なスキーマ仕様について備考欄(前提条件や制限事項)に記載のこと)	必須		
2-4-3	座標参照系と座標の表記	「6.2 座標参照系と座標の表記」で定められた、座標参照系と座標の表記に対応した地図データの交換ができること	必須		
3	PF通信機能	PF通信標準仕様のPF通信機能を持つこと	必須	◎	
3-1	SOAP通信	PF通信標準仕様のPF通信機能(SOAP)を持つこと	必須	◎	
3-2	XML処理および共通ヘッダ処理	PF通信標準仕様のXML定義仕様を満たすXMLの処理、及び、共通ヘッダの処理ができること	必須	◎	
3-3	メッセージ交換パターン	PF通信標準仕様のメッセージ交換パターンの1つである「リクエスト・レスポンス型同期型レスポンス」のPF通信を行えること	必須	◎	

備考欄(前提条件や制限事項)

JPGIS標準XML Schemaから生成、実装を行う必要がある。